

5

最後の言葉

富三は、常に自分の健康に自信を持ち、健康であることを誇りにしていました。しかし、昭和四十七年六十九歳の新春を迎えると、急に呼吸困難をくり返すようになりました。

でも、健康に自信のある富三は、自分にも周囲の人達にも一時的なものだと言いついて聞かせて、学会にも出席するし、たのまれれば講演にも出かけました。そして、論文も書きました。

しかし、六月に入ると健康に異常をきたしていることがはっきりしてきました。周囲の人たちも、体をやすめるために、入院をすすめましたが、富三はがんとして聞き入れません。そして、「人間



晩年の博士